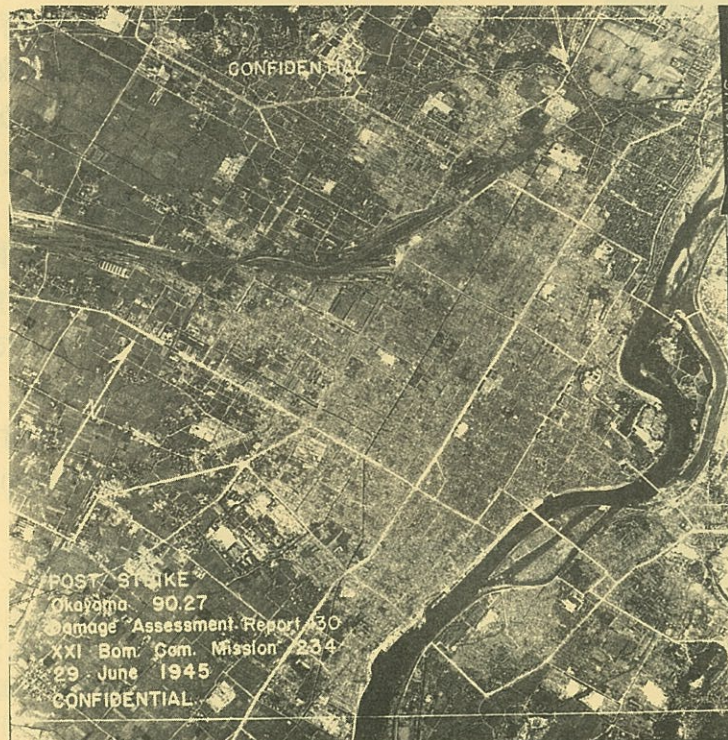


# 第30回 岡山戦災の 記録と写真展

2007年6月26日(火)～7月8日(日)



1945年7月5日に米軍が  
撮影した空襲後の市街地  
工藤 洋三氏 提供  
米国立公文書館所蔵

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）  
休館日 7月2日(月曜日)  
会場 岡山市デジタルミュージアム4階企画展示室  
入場料 無料  
主催 岡山市・岡山市デジタルミュージアム

## 記念講演会

6月30日(土) 午後1時～3時

定員80名（事前予約不要）

入場無料： デジタルミュージアム4階講義室

### 「戦中戦後の岡山に想う」

戦災体験者 南石 元久 氏

### 「B-29の写真偵察と岡山空襲」

徳山工業高等専門学校 教授 工藤 洋三 氏



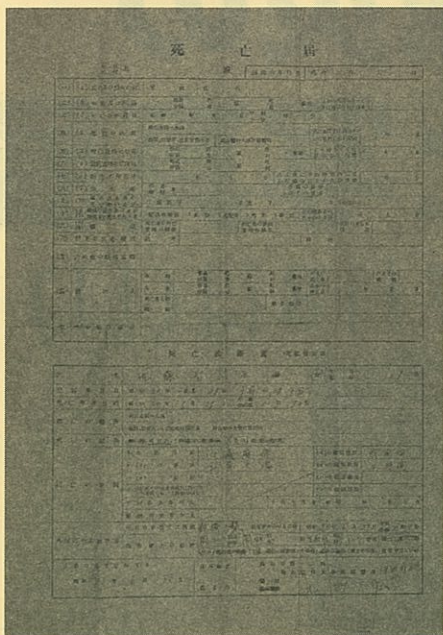
岡山市デジタルミュージアム

岡山市駅元町15-1 TEL (086)898-3000

<http://www.okayama-digital-museum.jp>



## 第30回 岡山戦災の記録と写真展 2007年6月26日(火)～7月8日(日)



岡山空襲で亡くなられた  
佐藤 智嵯子さんの死亡診断書



子供用の防空頭巾

太平洋戦争の末期、1945年(昭和20)は米軍による日本各地の都市市街地を対象とした空襲が本格的に行われた年でした。

この年の6月29日、138機のB-29が約880トンもの焼夷弾を岡山市街地に投弾しました。午前2時43分から午前4時7分まで、約1時間半にも及んだ空襲により、岡山は当時の市街地の約63%を焼失し、亡くなられた方は、少なくとも1700人を越えると考えられています。\*

左の死亡診断書は6月29日の午前11時30分に亡くなられた佐藤智嵯子さんのものです。岡山市では1枚しか確認されていない貴重な資料ですが、ご遺族の「このことが忘れられることのないように」との思いから公開させていただくことが可能になりました。

今回の展示ではこうした貴重な資料や、焼夷弾・高熱によって変形した瓦といった実物資料に加え、米軍が当時作成した記録の中から貴重な写真や映像についてもご紹介いたします。

岡山空襲は何故行われ、どのようなものであったのか、そして岡山はどのようにして復興していったのか。この催しが、平和について考えていただく一助となれば幸いです。

\*最近の研究では2000人を越えるともいわれています。

### 「岡山戦災の記録と写真展」とは

「岡山戦災の記録と写真展」は、1978年(昭和53)に「いちばんホール」(一番街)で開催されたのが始まりです。毎年6月29日を中心に戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるため、岡山市に寄贈された戦災に関する資料や岡山空襲に関する写真を展示してきており、今回で30回目を迎えます。

## 記念講演会 2007年6月30日(土) 午後1時～3時

会場 岡山市デジタルミュージアム4階講義室

入場料 無料 定員80名(事前予約不要)

### 「戦中戦後の岡山に想う」

\*80名をこえる場合、入場をお断りさせていただくことがあります。

なんせき もとひさ  
戦災体験者 南石 元久 氏

昭和4年生まれの南石元久さんは、岡山空襲の時には16歳でした。次第に戦況が悪くなり、防空体制が強化され、食糧事情が極端に悪化する中、日常生活は戦争一色に染まったそうです。戦中戦後の生活や空襲について実体験をお話していただきます。

### 「B-29の写真偵察と岡山空襲」

徳山工業高等専門学校 教授 工藤 洋三 氏

米軍の日本本土空襲の中で、岡山はどのように位置づけられ、どのように記録され、どのように空襲されたのでしょうか。最近明らかになってきたB-29による写真偵察などの記録から、米軍資料の調査研究を長年行ってこられた工藤洋三さんにお話していただきます。